

那覇市総合計画審議会 第1回総括部会

日時： 平成29年4月28日（金） 18:00～20:00 場所：那覇市役所 602会議室

【出席者】 審議員： 仲地博会長、山代寛委員、山城真紀子委員、下地芳郎委員

事務局： 仲本副部長、幸地課長、稲福副参事、玉那覇主査、富川

【次第】

- (1) 議題 議題1 基本構想の答申書のまとめ方について
 議題2 第5次那覇市総合計画基本構想について
- (2) 事務連絡

【資料】

- 議題資料1 基本構想の答申書のまとめ方について
- 議題資料2 第5次那覇市総合計画基本構想（案）
- 参考資料 第2回総合計画審議会後の委員からの意見等

会長： みなさま、こんばんは。本日は、第1回の総括部会です。2名の委員がご都合で欠席ですので、4人での審議となります。よろしくお願いたします。事務局からまず最初に本日の議題の説明、資料の確認等をお願いいたします。

事務局： ハイサイ。本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。本日は第1回の総括部会ということで、前回の審議会におきまして第5次総合計画基本構想（案）を提案させていただきました。その中で全委員に基本構想案を見ていただきまして、様々なご意見をいただき、さらに具体的な審議につきましてはこの総括部会で行うということになっております。

では、本日の資料の確認をさせていただきます。（資料を確認する）

審議に先立ちまして、本日の会議開催の成立について確認いたします。総括部会6名の委員のうち、本日の出席委員は4名で、委員の過半数に足しておりますので、本審議会規則第6条第2項の規定により会の開催が可能となりましたことを確認いたします。

それでは、仲地会長、議事の進行をよろしくお願いたします。

会長： それでは、私の方から。前回の全体会議のときにもお諮りしましたが、那覇市の会議は原則公開となっております。「那覇市の会議の公開に関する指針」に基づき、審議会の会議の公開、非公開について、お諮りいたします。本日の審議会は「公開」とするとしてよろしいでしょうか。

委員： はい。（一同了承）

会長： 本審議会は公開といたします。

(1) 議題

議題1 基本構想の答申書のまとめ方について

会長： 総括部会は、基本構想及び総合計画全体を総括して調査審議することが事務となっております。前回、全体会議で提案されました「基本構想(案)」について調査審議を行い、審議会答申をまとめることとなっております。それでは、本日の議事を進めてまいります。

「議題1 基本構想の答申書のまとめ方について」事務局から説明してください。

事務： はい。よろしくお願いいたします。

(議題資料1を用いて、答申案のイメージ、構成について説明する)

これから審議していく過程でのご意見、追加すべき、修正すべき、削除すべき概念などを「まちづくりの将来像」「市政運営の姿勢」の項立てごとにまとめ、さらに、基本構想審議修正版を作成したいと考えております。

また、基本構想答申策定までの部会スケジュールにつきましても説明させていただきます。

6月1日審議会(全体会)にて答申案の審議を予定しております。総括部会は、それまでの間に本日を含めあと2回の、計3回の部会審議開催を予定しており、基本構想(案)を今回と次回に分け審議し、3回目で基本構想答申案の審議をしていただきたいと思いますと考えております。合わせてご審議の程、よろしくお願いいたします。

会長： スケジュール、よろしいでしょうか。大変厳しい日程です。よろしくご協力をお願いいたします。

日程は以上ですが、基本構想答申書のまとめ方について、イメージ確認できましたでしょうか。今日私もこんなふうな形で答申するという案をお聞きして、そうすると日程も大変厳しいなと思いましたけれども、たとえばこの表(議題資料1)ですね、この表のように総括的な意見を本総括部会の意見として出すとともに、諮問案の基本構想、これは前回紹介されました基本構想あるいは諮問案ですけれども、これを基本的な総括的な考え方に基づいて修正をして、本総括部会の案として全体会議に諮るということになります。二段階です。答申は一括でやるということになりますけれども、本総括部会の報告は二段階で行われるということです。よろしいでしょうか。追々議論をしながら、どういうふうな構想になるかというのが明らかになって、理解できるだろうかと思います。答申書のまとめ方は、事務局の想定通りに考えていきたいと思っております。

委員： はい。(一同了承)

議題2 第5次那覇市総合計画基本構想について

会長： それでは、本論に入りますけれども、本日は基本構想の前半を審議することになっています。

時間が限られております。おおよそ、目処となる審議時間を決めたいと思います。議題資料2「第5次那覇市総合計画基本構想（案）」をご覧ください。

「1まちづくりの将来像」「2市政運営の姿勢」は各15分程度、「3めざすまちの姿」は各分野20分を目安とし審議を進め、本日は8時頃までには審議を終えたいと思います。

これから一項ずつ審議をして参りますけれども、全体に通底するような意見を佐藤委員が（本日欠席のため、事前に事務局にメールで送付して）提示をしておりますので、まず佐藤委員の意見を見ておきたいと思います。事務局、読み上げよろしくお願いします。

事務局： では、佐藤学委員よりの意見資料をご覧ください。審議会での意見、それからその後に出ました委員の皆様の意見を佐藤委員にご覧いただき、事務局へのアドバイスと佐藤委員のご意見を添えてメールの方でいただきましたので、紹介させていただきます。（資料を読み上げて紹介する）

また、参考資料「第2回総合計画審議会後の委員からの意見等」のNo. 1～4までが全体に通じるものとなっておりますので、ここで紹介させていただきたいと思います。（No. 1～4を要約し、紹介する）

会長： はい。委員からの意見のNo. 1～4を紹介していただきました。佐藤委員の意見と関連するところもございます。佐藤委員の意見にありました、「文章の好みの部分は事務局の推敲の対象としてやっていただき、内容について審議したいと思います」という提案はもっともだと思います。

それでは、議事を進めますけれども、事務局より提案されている基本構想の諮問案を読み上げていただき、委員からの意見を紹介していただきたいと思います。よろしくお願いします。

事務： （議題資料2「第5次那覇市総合計画基本構想（案）」の「1 まちづくりの将来像」を読み上げ、説明する。これに対する委員からの意見である、参考資料のNo. 5～11を紹介する）

会長： 委員からの意見を踏まえまして、「1 まちづくりの将来像」についてご意見を聞きたいと思います。

山代委員： 今のところ（委員意見No. 14、43について）なんですけれども、学生に実は見てもらって、No. 43と同じ並びがよいという意見が出てきて、やっぱり言葉が最後に来るところにウェイトが大きくかかるというので、こういうふうには、「暮らし、働き、育てよう」というのがいいんじゃないの、というNo. 43と同じ意見が出ておりました。僕はこちらの方がいいかなあと。それ

から、学生さんに案を見てもらったところ、非常に良いと言っておりました。

会長： 「暮らし、働き、育てよう」のほうが良いということですか？

山代委員： そうですね、その順番がいいんじゃないか、というふうに。語呂も悪くならないし、どこにウェイトをおくかっていう……。

会長： 語呂もいいし、育て、という、今の那覇の課題そして那覇の将来を担う子供たちに対する視点があって、良いように思います。これについては、事務局で推敲をよろしくお願いします。他にいかがでしょうか。

山城委員： 確認なのですが、（基本構想案で）下線が引かれているのはどういう意味合いでしょうか。

事務局： はい。市民提案をいただいた箇所を我々の方でできるだけ取り入れているというところですね、右側の市民提案にも下線を引いておりますが、基本構想（案）でもそれを取り入れている部分、対応する部分に下線を引いてございます。キャッチフレーズでは、「育て」以外のところが市民提案なので、「育て」以外の全てが下線となってございます。後ほど出てきますけれども、「わったー自慢のなは」というところもですね、市民からの言葉としていただいたところがありますので、基本構想の中でもこうして取り入れているところがございます。

事務局： 補足を申し上げます。今回、この基本構想を策定するにあたりまして、審議会委員の先生方をお願いする前に、28年度は市民の皆様にお集まりいただきまして、なは市民協働大学院というものを開催しまして、テーマはこういった基本構想に類するものを市民の皆様の視点でお考えいただきました。その成果として上がりましたのがこの市民提案、資料右側に書いてあるものでございまして、私どもとしましては市民との協働というのを大きな旗印にしてございますので、極力、市民の皆様から出てきた意見は基本構想の中にもしっかりと取り入れていこうという発想から、下線を引きまして、こういったところでご提言をいただいておりますと明示させていただいております。

山城委員： ありがとうございます。

会長： 他にいかがですか。（委員からの意見では）No. 5～11が今の項目に対するところですよ。No. 6のローマ字、ひらがな、漢字表記の意図というのは、今審議している項目に関連しているのですか？

事務局： 15ページの上から4行目「なは、那覇、NAHA」というところです。

会長： なるほど。いかがでしょうか、他の場所についても（表記に関する意見が）出ましたけれども、今日来るときに廊下を見ていたらのぼりが立っていて、その中にひらがなの「なは」、漢字

の「那覇」、ローマ字の「NAHA」がありましたね。もう一般的に使われているということですね。これはそのままでもいいような感じがいたしますが、いかがでしょうか。それぞれのニュアンスがあるのだと思います。

山代委員： 佐藤委員のおっしゃる、「主観的『好み』の領域に関わると判断できるものは、修正検討対象にしない」というものは、こういうところも含まれるかと思えます。

会長： そうですね。よろしいでしょうか。「1 まちづくりの将来像」はおおむね原案通りでよろしいか、ということだと思いますが、答申に総括的な意見を述べる上で、まちづくりの将来像、基本的に、委員のみなさんの意見いかがでしょうか。

事務局： よろしいでしょうか。今、山代委員からありましたように、「暮らし、育て、働こう」というのは「暮らし、働き、育てよう」（の方が良い）という意見があったということで、我々認識してよろしいでしょうか。

委員一同： はい。

山代委員： 第4次総計でも「子ども」というのをこう、やっぱりそれは引き継いで、第5次でも強調しておいていいのかなあと思えます。これから人口が減っていくとかいうビジョンがあるとしたらなおさら。

会長： それでは、「2 市政運営の姿勢」について。この「シセイ」がふたつ重なるのは少し語呂が悪いような感じがしますが、これについて諮問案を読み上げて、それから事務局からのコメントがあれば、特に委員からの意見をですね、お願いをいたします。

事務：（議題資料2「第5次那覇市総合計画基本構想（案）」の「2 市政運営の姿勢」を読み上げ、説明する。これに対する委員からの意見である、参考資料のNo. 12～17を紹介する。）

会長： はい。委員の意見はNo. 12～17ですが、特に事務局として、委員のご指摘がもっともだと受け止めたのがNo. 14の「障がいの有無に関わらず」という文言を加えてほしいというのと、No. 16の多様性についての言及してもらいたいというもの。事務局の考え、我々委員としてももっともだと思いますがいかがでしょうか。

山代委員： もっともだと思います。

会長： よろしいですか。No. 14、No. 16はそれでいくとして、残りはいかがですか。「修飾語が多すぎる」などの意見は、文章の推敲は後ほどまた事務局に考えていただくということでもよろしいでしょうね。No. 12についても、「地域において」という修飾が追加されていますが、これは内容に関係していますでしょうか。（委員の意見が出ないことを確認し、）これについても、文章の推敲を事務局に一任をして確認をしたいと思えます。参考資料2ページの上の方、「『地域で支

えあう』視点が大切である。又、P17『地域と福祉で支えあう』との整合性の確保」「『愛着と誇り』を『地域に愛着と誇り』に変更」についても、文章推敲を事務局に一義的にやっていただきたいと思います。

No. 15とNo. 16は同じ内容ですか？ 重なっている？

下地委員： 重なっていますが、少し違いますね。

事務局： よろしいでしょうか。No. 15とNo. 16なのですが、No. 15は性別に関する言及が見当たらないというご指摘・ご意見いただいたところでございますけれども、事務局としまして、「共生の絆」のほうで「世代や性別の枠を超えて一人ひとりの暮らしと生きがいを」というところで表現させていただいているつもりでございますけれども、そういったところでニュアンス、表現ぶりが足りていないのかというところ……。

会長： このNo. 15の意見を述べた方は、共生の絆の性別に関する部分を見落としたということなのか、もっと入れてほしいということなのですかね。

事務局： 私がこのご指摘を受けて感じましたのは、中ほどにもありますが、「全ての部会で検討をお願いしたい」ということがございまして、このあと部会の審議に行きますが、そこでもやはり性別による業務の固定化みたいなものを避けてほしいと、そういう意図であったと思います。

会長： では、これは全ての部会で検討したいと思います。No. 17はどうか、これは内容にわたって検討すべき必要があるところでしょうか。「おおらか」「つつみこむ」という表現、「寛容」の話なので良いように思いますが、いかがでしょうか。（No. 17は）「共鳴の絆」「寛容の絆」の項目を削除したほうがという意味でしょうかね。

（意見が出ないことを確認して）姿勢運営の姿勢ですから、「寛容」を含めた姿勢、他の地域や他自治体の好事例を学ぶ、そういうような他の地域に対する共鳴と、そういったことで、特に無い方が良いというものでもないだろうと思いますのでそのままでもよろしいでしょうね。

「2 市政運営の姿勢」については、全体として、本総括部会で述べることはありますでしょうか。

下地委員： ちょっとだけ、その部分について（事前に）意見を申し上げなかったのがあれなんですけれども、表現の部分で、「Kから始まる」というふうに、この部分はあえてしたということですか？ 「協働の絆」で「Kyoudou」というふうにローマ字を入れたいというふうな、この部分だけにこう（ローマ字が）5つ入っていて、ちょっと個人的には違和感が。基本構想にこういう「Kから始まる」ということに何か意味があるというのなら分かるのですが、何かちょっと言葉の意味合いが分かりませんでした。意味があれば教えてください。

事務局： お答えいたします。この総合計画の基本構想の中で、確かにここは表現ぶりも含めまして少し色合いが違うところをごさいます、この全体の基本構想の中でも、遊び心を取り入れたというようにところがまずひとつございまして、「市政運営の姿勢」でございますので、少しキャッチフレーズ的な理念を示すというような事柄を置きたいということで、イメージ的に「5つのK」ということで出ささせていただいております。それでKから始まる5つの言葉を連ねておまして、ちょっとやっぱりこういった部分にそぐわない、馴染まないというような意見もいくつかいただいているところがございます。私どもとしましては、少し変化も付けながら、というような意味合いがございました。

山城委員： たとえば、たまたまこの、「市政運営の姿勢」を検討したときのキーワードというのが、こういう言葉が出てきて、それが偶然にもKから始まっていたということですか、それともKから始まるような言葉を探して工夫したという……。

事務局： その側面もございまして。まず「協働」というのが、私ども那覇市はずっと旗印にしておりますので、それが最初に来ておりました。そしてまた「共生」というのが、那覇市はLGBTの宣言をしたり、今日的な大きな課題となっておりますので、これも順調に決まりました。こういうふうに連ねていくと、あとひとつ「寛容」というのもそうですが、沖縄県の21世紀ビジョンにおきましても「沖縄らしい優しい社会の構築」とありますように、そういった「寛容」というところも必要かというふうに連ねていったときに、偶然にもKという頭文字が重なりましたので、ひとつのキーワードで集めてみようというところで出来上がったのがこの「5つのK」となります。ちなみにその後が続いている「絆」もKなんですけれども、本当は大きなK（絆）を小さな5つのKで包むというようなイメージで持っていたのですが、そこまでは少々くどいかということで、表現を控えております。

山城委員： なるほど。

下地委員： ここはそれぞれの考えなのでしょうけれども、この部分だけにそういうのが出てくるのがすごい違和感を感じて、基本構想全体に遊び心を盛り込むのであれば、全体的なところでそういう、行政目線じゃなくて市民目線、子どもが読んでも分かりやすい基本構想をめざすのであればやはりそういうトーンにしていかななくてはいけない。佐藤先生の言ったように、このあたりというのはみんなの寄せ集めの文章ではだめなんですよね。誰か一人の人が基本当面のマナーをしっかり揃えてこの文章を整理していかないと、読んでいくときにいきなりこういうのが出てきて後はまた普通のもが出てくるというのは……。まあ悪いということではないのですがその、アルファベットのKから始まるというところに、強調することの意味が全くよく分からないので、

これは遊び心とはちょっと言わないのではというような感じがいたします。「市政運営の姿勢」に遊び心という表現なのかな、とちょっと。

事務局： 2のタイトルなのですが、私ども庁議で議論していた際にはサブタイトルで「シセイのシセイ」と付けていたのですが、これは少し砕けすぎじゃないかというようなことで、削除されたという経緯がございます。

山城委員： 近助だとかWAとか、ああいうところもあつての繋がりなのかなとは思いますが。

山代委員： 学生にこれを見てもらったときに、引っかかる、という子もいたんだけど、その引っかかるのが良い、という子もいて、その「近助」もそうなんですけど、これなんだろう？という（引っかかりがあるほうが）面白いなあという意見もありました。

会長： さて、「2 市政運営の姿勢」に関して、この新しい基本構想で、市政運営の市政をどういうふうになに表現するかということですね、我々の基本的な考え方として、Kの話はさて置くとしても、市政運営の姿勢として「協働・共生・活力・共鳴・寛容」を持ちたいということについては良いんでしょうね。

ただですね、下地委員がおっしゃっていることは、市政運営の姿勢を考えるに際して、Kというのに引きずられて市政が出てきたんじゃないだろうか、本来的な市政運営の姿勢というのを適切に考えたかというところですが、それについては事務局から、「協働」「共生」というのは基本的な姿勢であると。「寛容」というのも21世紀ビジョンから引き出されたというふうなことで。さて、どうしたものでしょうかね。

私の、きわめて個人的な意見としては、ここで平和に対する言及がないのが残念ですが、これはしかしどこかで出てくるのであれば良いと思っていますが、この市政運営の姿勢は、全体との調和が損なわれることのないよう改めて書き直しをするか、それともこの遊び心でKで取りまとめたところをですね、これはこれでいいじゃないかというふうにするのか、いかがでしょうか。

下地委員： 今話にあった「平和」というメッセージは、極めて那覇は強かったと思うので、これはちょっと過去のもの確認しないとわからないんですけど、どういうふうになっているのでしょうか。平和というキーワードについては、いまこれまで市政運営の中でどのように使われていたのかということが確認できれば。

事務局： 平和はもうこの間、那覇市がずっと掲げていたひとつの大きな旗印となってございます。現行の第4次那覇市総合計画ではサブタイトルの中で、「亜熱帯の自然と文化が息づく、自治・協働・平和都市をめざして」ということで、表紙に出てくるぐらい大きな位置づけとなってござ

います。またその前の第3次総合計画の中でも、都市像のひとつに「平和の発信都市」と明記を
してございますので、この間というのは、先生方ご指摘の通り、那覇市の非常に大きなウェイト
を占めているような位置づけではございました。今般の第5次総合計画のなかでは、市政運営の
姿勢ということではなくて、カテゴリー的にはそのあとの「めざすまちの姿」の中で、「自治・
協働・男女参画・平和」というところに入っているのですが、従前の表記に比較しますと、表現
としては少し薄くなっているかな、というような印象を私どもも持っております。

会長： これは批判の対象になりませんか？ 今まで掲げてきた平和というのが、第5次総計では
後退をしたというのが、那覇市の市政の転換とまでは言わないけれども、批判する人はいるでし
ょうね。これはちょっとやっぱり気になりますね。

下地委員： このKから始まる5つというのはひとつの意味合いがあるとしても、そっちが優先なの
か、これはアルファベットにしたらKですけどひらがなにしたらまた違う話になってくるので、
そういうところをつつくと切りがないんですよ。それよりも私は、今仲地先生が言ったように、
骨太の柱として、平和という部分を「共生」に位置づけるのであればこの中に明確に平和という
概念を入れていかななくてはならないですし、やっぱり平和というものが一番先に那覇市が出るも
のだということであればやはり市政運営の方針に、まず第一番目に「平和」が出るか最後に出る
か、何かそういう議論があっても良いのではないかと思いました。

会長： 平和の位置づけについてですね、この基本構想の中で適切に位置づけられないかどうか検討
をお願いできますかね。

事務局： はい。これは、Kというくくりについて必ずしも必然性はございませんので、「平和」を
入れるのであれば、このKも取り外しまして、通常のパターンで並べていくというのもひとつの
案だというように私どもも感じておりますので、その方向で少し調整させていただきます。

会長： はい。それでは、その方向で、市政運営の姿勢の所を再調整して案を出していただくと。次
回その案をもとに検討したいと思います。もしかしたら、この5つの中に、Kを揃えるために無
理やり入れたKがあるかもしれません。そういうKがあれば省いて、市政運営の姿勢として、基
本的な骨太の方針ができないかどうか。那覇市長は「ひとつなぐまち」でしたか？ その「つな
ぐ」の中にこの絆が入っているかと思えますけれども、絆として大きく出して、あとどういふ
うな市政を基本的に出すか、ご検討よろしく願いいたします。

「2 市政運営の姿勢」の議論はこの程度でよろしいでしょうか。

委員： はい。（一同了承）

会長： それでは、「3 めざすまちの姿」ですね。「3 めざすまちの姿」については、5つの大きな柱がありますが、その分野ごとに審議を進めてまいります。本日は佐藤委員、堤委員が欠席ですので、【自治・協働・男女参画・平和・防災・防犯】【環境・都市基盤】は次回審議することといたします。

17 ページの「互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA」【保健・福祉・医療】について、事務局から説明をお願いします。

事務局： （議題資料2「第5次那覇市総合計画基本構想（案）」の「3 めざすまちの姿【保健・福祉・医療】」を読み上げ、説明する。これに対する委員からの意見はなかった）

会長： ここは委員の意見は無かったのですか？

事務局： ございませんでした。

会長： それでは、【保健・福祉・医療】につきまして、ご発言をいただきたいと思います。

下地委員： 先ほど、No. 15で全ての部会で性別に関する検討をというのがありましたので、検討した方がいいかと思います。

会長： これは案がありますかね。【保健・福祉・医療】の中で、性別に関するどんな展望、それから構想、希望があるか。「障がいのある人も無い人も」というフレーズの中に一言織り込むという形にしますか？

下地委員： LGBTについては那覇市は積極的に支援をしていこうという方針が出てますよね。そういうところがどこかに見受けられるような文があったほうが良いかと思います。LGBTについても色々な意見があるのが事実だと思うのですが、そこは踏み込んで市として出している以上は、これを継続していくという表現は必要かもしれませんね。

会長： 那覇市が出した宣言は、レインボー宣言でしたね。下線の部分や、「また、誰もが健康で文化的な……」といったフレーズの辺りに、「性の多様性を認める那覇市」というような形で位置づけをしていただけますでしょうか。あとございますか。

下地委員： （性の多様性については）前の【男女参画】分野でも出ているんですか？ 入れるとすればここかと思いますが、委員からの意見では全ての部会とあったので、どういうふうに入れていくのか……。

会長： そうですね。各分野全部に性の多様性についてを持ってくるというのはちょっとおかしいですよ。

事務局： 各分野また専門部会に別れて参りますので、これとはまた別に基本計画をご審議いただきます。その中で、いわゆる性別による役割の固定化というような事を避けるというのが重要にな

って来るかなと思っております。

会長： どこの部会でその基本計画を議論するのか、基本計画に応じてそのことを書き入れるということですね。

事務局： はい。

会長： 【保健・福祉・医療】の分野で、この諮問案はおおよそ妥当な内容になっているということではよろしいでしょうか。抜けているところは無いですか？（意見が出ないことを確認して）それでは、1時間が経過しましたので、5分ほど休憩を入れたいと思います。7時5分から再開しましょうね。

～休憩～

会長： それでは再開します。

【子ども・教育・文化】について、事務局、読みあげて委員意見の紹介をお願いします。

事務： （議題資料2「第5次那覇市総合計画基本構想（案）」の「3 めざすまちの姿【子ども・教育・文化】」を読み上げ、説明する。これに対する委員からの意見は、No. 22～No. 26までが該当する。）

会長： それでは、ご発言をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

「子ども」を別立てにしたらどうかと、【子ども・教育・文化】は並列で、これは質が同じかという提起がされております。これはいかがでしょうか。「子ども」を別立てにするということは、5本の柱で分野わけしているものを6本の柱に変更するということになるのですが、それ程大きな比重として扱って良いかという問題になりますね。子どもが重要なことは分かりますけれども……。

（意見が出ないのを確認して）【子ども・教育・文化】というくくりはこれでよしとしてよろしいでしょうか。

下地委員： 前回の総合計画でも学びの部分と文化というのが一緒になっているのであれなんですけれども、何かこう、学びと文化をセットにした項目というのも少し、もっと文化だとかを前に打ち出すときには違うカテゴリーではあるんですよ。ただ、どれだけの柱にするのかというところでのまとめ方の問題かなというところは。「文化が薫る誇りあるまち」というところだけでも、

本来は大きな柱でもあるし、未来を担う子育てだとか、学びの環境についても結構大きい。これを見ると第4次の流れから来ているというところがあるんですけども、どこかで大きな、これまでになかった柱というのを考えられて、どこかにこれが入っているかどうかというのをお聞きしたかったのですですけども。この柱立ての中でですね、第4次から第5次に向かう中で新規性のある柱というのは、どこかで見れるんですけど。

会長： 第4次は、柱はいくつでしたっけ？

下地委員： 6つですよ？（事務局に確認し）6つです。第4次の6つの都市像と、今回の新しい構想の関係性というようなものが分かれば。

事務局： 説明させていただきます。本日ご議論いただいているところではないんですけども、4次の中ではですね、「自治・協働・平和・男女参画」というものがひとつ、それから「保健・福祉・医療」というのがひとつ、それから「環境」、「子ども・教育・文化」、それから「産業・観光・情報」、最後に「都市基盤・防災」という観点から、6つの都市像となっております。今回、第5次にあたりましては自治・協働というところと、防災・防犯がひとつ、自分たちのまちは自分たちで守るという市民の思いもありまして、（新規の部分としては）ひとつ目に「協働・防災」という分野がひとつになったというところがございます。また、環境と都市基盤をひとつにしていると。持続可能な都市を築くために環境という視点からの都市基盤の構築というのもより強い結びつきが必要というところもありまして、「環境・都市基盤」をひとつのめざすまちの姿に置いているというところで、5つの柱に再編したというところがございます。「保健・福祉・医療」「子ども・教育・文化」「産業・観光・情報」につきましては、第4次から第5次にそのまま引継いでいる部分でございます。

会長： この【子ども・教育・文化】という枠組みをバラして「子ども」を別立てとするというのはバランスの問題ですから、今後の審議の進め方でも既に5つの部会を発足してしまっていてですね、【子ども・教育・文化】という範疇で進めるということによろしいでしょうね。

委員： はい。（一同了承）

会長： スポーツの記述については、事務局のお話にありましたけれども、スポーツも学びの中に含まれるのではないかと委員からの意見がありました。特にスポーツを取り出すだけの重要性があると。健康長寿に対する思いを強調する意味もあって、あえて出してきたという委員意見もありました。よろしいでしょうか。（このまま記述を残して）いいんじゃないかと思っておりますが。

あと、子どもが支援の対象になっているというニュアンスが強すぎる、子どもの主体性をもつ

と打ち出す表現が必要であるという意見についてはいかがでしょうか。これは事務局、どのようにお考えになりますか。

(委員、事務局ともに意見が出ないのを確認して) この考え方自体はいかがでしょうか。この諮問案の文章は、子どもが支援される対象になっていると。そう言われるとですね、7行目「子どもたちの知的好奇心を高め……」ということで、高めてあげようということになります。「子どもの未来を切り開く環境を市が整えます」という風に読めます。子どもの主体的な立場、自分ごととして受け止める表現、そういうまちにしたいというような提言だと思いたいますがいかがですか。

5行目「子育てが楽しくなるまちづくり」と、親のことが書いてあります。子どもがすくすくと伸びていくようなまちにしたいと、そういうふうな表現を出していただきたいと思います。子どもが自ら成長していく、子供というのは幼児・小学生だけではなくて、もう少し広い年齢まで含まれると思いますので。そういうことでこのNo. 26の意見を受け止めたいと思いたいますがいかがでしょうか。

山代委員： スポーツのところですけども、全体会で「学びとスポーツ」という書き方はおかしいのではないかと意見があり、そのときはすごく「なるほどな」と思ったのですが、そこはどうなるのでしょうか。

会長： 先ほど(説明の中で) あったかと思いますが、スポーツに関する事務局の見解をもう一度お願いします。

事務局： 学び、という大きな概念の中に、文化や趣味、スポーツを学ぶということが含まれるということはなるほどなと思うのですが、スポーツというのは身体を動かすというところですね、身体を動かしてスポーツを楽しむというところが健康にもつながるというところ、それから色々なサークル等を通じて(小さなコミュニティとして)他の部分にも繋がるというところで、こういったスポーツの効用と言いますか、果たす役割というのは、人を楽しませる、見るスポーツ・参加するスポーツと色々ございますので、そういったところも大事な要素になるかと思いたす。特に沖縄、健康長寿が危機にありますので、そういったスポーツから健康づくりというところも、那覇市はいま、那覇マラソンであったりウォーキング大会であったりにもこれまで取り組んできたところがございますので、そういったスポーツというのは、事務局としましては構想の中でも「学び」から切り出していきたいと思いたしているところがございます。

山代委員： 委員意見 No. 25 と同じような見解?

事務局： そうですね、まさしくこちら我々事務局の考えを代弁しているようなご意見で……。

山代委員： 議論した結果このようになっているということですね。分かりました。

会長： 今、健康長寿の話が出ましたが、県の21世紀ビジョンの重要項目が健康長寿の復活ということになっていて、県の計画と市の計画の整合性というか合致するところとか、それは必要だろうと思います。健康長寿県の復活のためにもスポーツは重要で、ただ、健康長寿県の復活というのは【子ども・教育・文化】の話の中には位置づけにくいわけですが、そういうふうな、委員意見No.25の視点ですね、健康長寿に対する思いの強調というのが、県の政策との整合性も、市は取れて当然なんだということで理解をしたいと思います。

下地委員： 今の所、学びではなく文化に関してなんですけど、これまで那覇市も、前知事になってからしまくとうばという言葉の部分を大事にしようというのをすごく打ち出しているかと思うのですが、学びの所に比べて文化の記述は最後の3行だけになっていて、「芸能や文化にふれあい……」というところだけになっている。ここのところは、もう少し踏み込んでいいかなという感じは。しまくとうばを入れるかどうかを含めてですね。もう一步踏み込んだほうが、(今の書きぶりでは)バランスが少し弱いような感じがしますね。

会長： 前の市長の時代から、しまくとうばの復活ということで取り組んでいます。事務局の仲本さんはしまくとうばが上手だという噂を聞いておりますが、せっかく前市長から取組が続いている言語の伝統をですね、何かほしいところですね。言語というふうに単語を出すかどうかは別として、歴史伝統文化芸能というような、そこに言語も含まれているのかなと。

事務局： よろしいでしょうか。次のページをお開きいただいて、19ページですね、右上になりますが、市民提案の中で「ウチナーグチを生活に」とあり、市民提案の中ではウチナーグチというのにかなりスポットライトが当たっております。各論となる基本計画の中では当然施策として位置づけなくてはならないと私どもも認識しておりますが、その前段として足がかりとなるこの基本構想の中に、やはりそのしまくとうばという部分をですね、足がかりとなるような記述を少し検討して挿入したいというふうに考えます。

会長： それでは、その趣旨を踏まえた作文をお願いします。この【子ども・教育・文化】の項、よろしいでしょうか。

委員： (一同了承)

会長： それでは、次の「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA」、これは【産業・観光・情報】分野ですね。これについて事務局、説明をお願いします。

事務：（議題資料2「第5次那覇市総合計画基本構想（案）」の「3 めざすまちの姿【産業・観光・情報】」を読み上げ、説明する。これに対する委員からの意見は、No. 27～No. 32までが該当する。）

会長： ご意見お聞きしたいと思います。国際ビジネス都市というのは、私の感じとしましては掲げすぎというか、理想に走りすぎというか、届かない目標を出しているような感じがしますがどうですかね。

下地委員： このあたりは、今の沖縄、那覇市というより沖縄県全体がいわゆる観光レジャー都市、レジャーのリゾートというイメージでこれまで本土復帰以降きたのですけれども、アジアの経済発展だとかを考えたときに、日本とアジアをつなぐビジネス交流の拠点によりやく今なる可能性が、昔は単なる可能性だったのが現実的にこれだけ広がってきているので、私はこの数年はやっぱりビジネスリゾートという概念が大事になってくると。沖縄にくる県外の人たち、海外の人たちは、遊びにくるだけじゃなくて、やっぱり沖縄の地理的特性を活かしたビジネスの拠点としても将来的には持っていくべきだと、これは県の姿勢の中にも、21世紀ビジョンの中間見直しの中で、MICEを中心に、MICE自体は与那原にありますけれども那覇空港とか港湾がありますから、入口としては那覇がビジネス関係者の拠点になるのは間違いないところなんですよ。ですから、新しい基本構想の中には、沖縄、那覇市というのを単にこう癒しのまちとかレジャーのまちというところではなくて、もう一步踏み込んだ国際ビジネス都市をめざしていくというのが、昔の国際都市構想では夢物語的に語られたというところもありますけれども今ようやくそれが現実のものになってきているというのもあるので、どういう書き方をするかはちょっとあれですけども、21世紀ビジョンの中間見直しあたりとちょっと比較して見ると、この沖縄全体の中で那覇市はリーダーになるんだという姿勢はあってもいいんじゃないかと思います。空港と港湾の整備が進むと人とモノの動きが相当変わってくるので。

会長： 国際ビジネスの拠点と言いますか、そういう性質を持った沖縄はリゾートになっていく、またMICEもできるということで、この文章のどこか、3行目「人とモノが集い……」のあたりなどに、国際ビジネス都市あるいはビジネスリゾート、あるいはその入口と、那覇はその入口であるというふうな趣旨で修正を行っていただきたいと思います。

労働環境についてはいかがですか。ブラック企業等の労働環境については関心も高いところですが、産業の育成振興を図るということですが、これと共に、より労働環境の整備というかですね、そのような趣旨を書き込んではいかがでしょうか。

下地委員： 今やはり沖縄で求められているのが、労働に対する対価としての賃金とか、雇用環境と

というのが劣っているというところがありますので、やはりここは、「働く力」ということだけだと、労働を強化するような（ことになりかねない）。やっぱりそこは、環境を整えて。今、沖縄タイムスがずっと連載をやっていてコメントを求められたのですが、本来であればこれだけ観光客も増えて収入も上がっているはずが、給料にリンクしないといけないんだけど、残念ながら現時点ではそこまで至っていない。そこは、人が増えて環境が逆に悪くなってしまっている部分も、やはりその、産業を支える人たちのモチベーションが上がるような仕組みにしていかないと、今まではとにかく呼んで来て産業を発展させてと働く部分を強化して、そこで得られる生活環境みたいなところにはちょっとあんまり目が向いてなかったかと。これをどこまで言うかどうかは難しいところですけど、「働く力」だけでは、ちょっとやっぱり。

会長： タイムスの連載を見ると、手取り十万を下回る人がいくらでもいるという文章が出て参ります。働く人、生活者の視点というものをここにやっぱり入れていただきたいと思います。那覇は、生活をする人の生活の向上、労働環境の改善、そういうことのためにできることをやりますというようなこともですね、そういうような趣旨の内容を入れてほしいです。

委員意見の中では、他に議論しておくべきところはないでしょうか。

下地委員： 表現のところかと思うのですが、1～2行目にまたがって線を引いているところですけども、「世界水準にふれあい、つながり、ひろがる」というところはちょっと、どうしてこういう表現かなというところが。この「世界水準」という言葉は、私が県にいたときに観光振興基本計画の審議会の中で作ってきたんですけども、あまりこう世界水準という曖昧な言葉はどうかという意見があって、目指すというなら世界一を目指すというのならいいのだけでも、世界水準をという言い方は非常に漠然としているねという、あの計画を作った段階では良かったとしても、これから向かうときに、「世界水準」という言い方ではなくてもう少しこうはっきりと、という議論は多いので。あえてこの「世界水準にふれあい、つながり、ひろがる」というようなことではなくて、アジアに開かれた本市は、もっとこうリーダー的な役割を果たせる、もう少しその可能性の部分、現実にならなっているわけですから。

会長： 私はですね、世界水準というのは漠然としておりますけれども、「ふれあい、つながり、ひろがる」と、それに触れるという目標は良いと思いますが、「アジアに開かれた」の部分で、アジアで世界水準って何かな、というところに疑問を持ちました。アジアにももちろん世界水準はあるだろうし、しかし世界水準というのだったらヨーロッパやアメリカの方が世界水準（となるものが多い）のではないだろうかとかですね。ここは世界水準とはそういう意味で、アジアに開かれた本市で世界水準、というのが、意味がやや不明となっているような印象を持ちました。

下地委員： この2行は全体として表現を少し考える必要があると。もう可能性を秘めているという時代ではなくて、実際にそうになってきているわけですから。

会長： はい。そこを検討お願いします。

下から3行目「マチグラー等の地域資源を生かした」というところは、具体的にどうですかね。商店街の活性化というのは市の施策としてやっていただきたいし理解しますが、もうマチグラーというのは努力しても難しいのじゃないかな。那覇に残っているマチグラーは無いわけじゃないかと思いますが、それを維持していくということは可能なのですかね。

下地委員： 「マチグラー等の地域資源」というのは、具体的にどういうものをイメージしているのですか？

事務局： 那覇市では今、「那覇まちま〜い」というツアーを行っており、観光客のみならず非常に好評を博しております。やっぱり那覇の路地裏をまわるというのに新たな価値観が生まれておりまして、本土からいらっしゃる皆さんそこに魅力を感じていらっしゃる。国際通りもにぎやかなんですが、一步入ったそれぞれの、平和通りからさらに筋道のところに魅力を非常に感じておりますので、こういった部分、マチグラーがひとつそうで、「マチグラー等」と表現しておりますけれども、こういった、我々からしたら極めて日常ではありますけれども、他者から見ればそこに新たな魅力を感じるという、我々がなかなか気付きにくい部分をしっかりと活かしていくということをここに込めております。

会長： 分かりました。「マチグラー」は小さな店が並んだ昔ながらの商店街という意味で使っているんですね。私は一つ一つの町屋、一銭町屋のことを言っているのかと思っていました。そういう意味じゃないわけですね。

下地委員： マチグラーというのは、定義はあるんですか？

山代委員： 私は、まちま〜いのイメージでした。

山城委員： 農連市場なんかも再開発をしていますよね。昔の、ああいうような、農連の持っていた雰囲気のようなものが、本当に新しくやるなかであれが出せるのかなあという……。行政が手を上げてやるのでしょけれど、昔ながらの雰囲気を引継いで行ける、まあ次世代の方々ですよ、それから行政が活性化させるための支援策なんかがあるのでしょけれど、なんとなくそれってずっと守られてあるのかしら、私たちの思っている「マチグラー」に対するこのイメージのままの「マチグラー」がずっと続くんだろうか、というような思いもどこかにあります。農連を通ったときに、あれ、これってどうなんだろうか、という。

事務局： 市民大学院でも同じような形で、相對売りとかシーブン（おまけ）文化とか、そういうの

をしっかり残したいよねというような議論も色々なされておりまして、実際それができるかといえれば現状でも既に難しいところがあるよねと。その中でもマチグラーをしっかりとどうにか残したい、という市民の意見が強かったのです。

山城委員： スーパーなどが出てきてから、シーブングラーとか、10円安めてとか言えない世代が感覚的にどんどん育っているのです、難しいですよ。その良さというのは残したいですよ、本当はね。

会長： ここはあと、いかがでしょうか。大体今の議論でよろしいでしょうか。

委員： はい。(一同了承)

会長： 【環境・都市基盤】分野は堤委員がおられるときに議論することにいたします。今日の予定としては大体こんなところですが、振返ってどうですか。何か言い足りなかったことはございますでしょうか。

「WA」の話がありましたね。これは自治協働分野ですから、次回やりたいと思いますが、(佐藤委員の意見にあったように)「Wa」というワードに「和風」「日本風」という意味があったとは知りませんでしたね。これはあとでまた詳しく聞いてみたいと思います。

山城委員： (市民提案の)「WA」と「Wa」は意味が違うのですか？

事務局： これは我々も存じ上げなかったのですが、佐藤委員の意見によりますと、「Wa」という表記はすなわち「和風」「日本風」「調和」等を表す英語になっているということです。推測するにたとえばカラオケという言葉がそのまま英語になっているようなことかと思えます。ここで使っている「WA」はまた違う意味を込めて使っておりますので、そこでの整合を整理した方がよいというご指摘だと理解しております。

会長： そういうふうな誤解を生ずる恐れがあるので注がついたということだと思いますが、佐藤委員がおられるときにまた聞きたいと思えます。他にありますでしょうか。事務局から何か議論が足りなかったところ、委員の意見を求めたいことはありますか。

事務局： お時間も迫っておりますが、「6 将来人口」について、こちらはそこまで議論もないだろうというようなところなのですが……。

山城委員： 確認なのですが、【子ども・教育・文化】の文化は子どもに限らないのですよね？ 子どもに限らず、沖縄文化という。

事務局： はい。先ほど下地委員からご提言もありましたように、本来はそれぞれひとつひとつに非常に大きなウェイトを持っている施策ではございますが、やはりボリューム上、ある程度柱でまとめなくてはいけないという要請もございます。私ども市役所においても部は9つとございます

ので、それぞれ大きなミッションを持っていますが、総合計画策定においてはやはりある程度のグルーピングが必要ということでこのようになってございます。

山城委員： 分かりました。ありがとうございます。

会長： 「6 将来人口」に行きましょう。事務局、読み上げと委員意見の紹介をお願いします。

事務局： （議題資料2「第5次那覇市総合計画基本構想（案）」の「6 将来人口」を読み上げ、説明する。これに対する委員からの意見は、No. 42 が該当する。将来人口推計の算出根拠について説明する）

会長： これはよろしいでしょうか。基本的には人口減少をこの程度で留めたいと、それを目標にやります。

山城委員： （算出に関して）那覇市独自の要因とは何ですか？

事務局： 再開発が行われた、たとえば新都心地区、真嘉比・古島地区です。国の統計では、那覇市全域を持って東京に人口が流出していくというような推計をされているのですが、新都心地区、真嘉比・古島地区は最近開発を終えた地区でありますので、そこに人口が入っていく要素を加味させていただきまして、合計6地区で人口の推計を行ったところでございます。

下地委員： 上から2行目「平成27年から平成32年に人口のピークを迎え」というのは何かに載っている表現なのですか？ 通常、「何年にピークを迎え」と特定があったかと思うのですが、5年間でピークを迎えというのがちょっと意味が分からない気がします。人口ビジョンの中でそのように記載されているということですか？

事務局： 正確にはこの5年間のいずれかの年でピークを迎え、ということになるのですが、国勢調査が5年刻みで行われるため、このような表現になってございます。沖縄県においても、表現としては5年の間に、というような表現となっておりました。

事務局： 推計値としましては、ピークは2015年、そのとき推計したのが319,435人だったのですが、作成中のそのときにおいても那覇市の人口はまだ増えていましたので、2015年がピークではないという、ただ2020年はそれから少し下がって318,000人と推計していますので、2015年から2020年までの間にピークを迎えて、2020年には318,000人になっている、という推計でございまして。表現を「平成27年から平成32年の間に」としたほうが正確に分かりやすいかもしれません。

会長：「間に」と入れたら、5年刻みの推計と矛盾しないわけですね。整合性が取れると。それとですね、中ほどに「平成42年では総人口311,000人（推計）」、下から2行目に「平成40年の人口目標は315,000人」とありますが、高すぎないですかね？ 推計値の2年前の目標になりますの

で……。目標だからもうしょうがないんですかね。

事務局： これは推計値でございまして、推計をそのまま採用するところなのですが、やはり、人口は町の活性を示すひとつの指標でもありますので、私どもとしましては、計画が終わる平成40年には、少なくとも現行の水準、その直前の平成22年の水準を目指したいという意思表示も込めてこの数字にさせていただきました。

下地委員： 推計では、平成40年の数値も出ているのですか？

事務局： 国勢調査ごとに推計を出しておりますので、間の数字は持っていない状況です。

下地委員： では、平成42年のひとつ前の推計は、平成37年ですか。それは？

事務局： 平成37年が、総人口が315,445人です。

下地委員： この5年間で人口が4,000人ほど減るという見通しなのを、その中間では逆に増やしていくということですか。

事務局： そうですね、平成37年の315,445人という数字の付近で3年間維持していくというような目標です。

会長： 基本構想10年後に、この基本構想が妥当だったかということが検証されるかと思いますが、大丈夫でしょうかね。沖縄は人口減少ではなくなお人口が増えている県で、那覇市への集中というのもまた進んでいるでしょうね。その傾向がなお続くと、そしてそのように努力をするということによろしいですか。

委員： はい。(一同了承)

会長： それでは、第1回総括部会は、これで閉めたいと思います。事務局、連絡事項ございますか。

事務局： はい。仲地会長並びに委員の皆様、本日の、第1回総括部会ご審議ありがとうございました。本日の審議内容は、事務局でまとめ、次回資料として委員へお配りいたします。

次回は、5月19日(金)18:00からこの会議室にて開催いたします。よろしくお願いたします。本日は、大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。

会長： 皆様、5月19日(金)のスケジュールの確認をよろしくお願いたします。それでは、閉会といたします。お疲れ様でした。

一同： お疲れさまでした。ありがとうございました。

以上